所聞社 2023　第28912号（日刊）

北海道新聞

2023年
6月13日
火曜日

発行所
北海道新聞社
〒060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011-221-2111
www.hokkaido-np.co.jp

道二期会芸術監督・三部さん

若い世代に魅力伝えたい

石田麻子教授の著書「市民オペラ」

石田麻子教授の著書「市民オペラ」では各地の団体の歩みや特徴を紹介しており、北海道については「市民オペラ前夜」の項で「市民オペラ」が広がる下地をつくり、北海道のオペラ文化をけん引してきた存在として、1964年に活動を始めた「北海道二期会」（理事長・上田文雄前札幌市長）に焦点を当てている。同会の前理事長で、現在は芸術監督を務める三部安紀子さん(79)＝写真＝に、同会の道内でオペラ文化の振興に取り組んだ歴史を振り返ってもらうとともに、今後の展望を聞いた。

◇

北海道二期会は、地方にもオペラ文化を広げたいという狙いで東京の二期会の分室として発足しました。会員はオーディションを経て入会した20～80代の声楽家約70人。北海道にオペラ愛好家を増やすこと、歌い手の技量を上げることを狙いに、ほぼ毎年オペラ公演を開催してきました。

演出家や指揮者は東京などから第一線の人材を招きますが、出演者の大半は会員からオーディションで選びます。多くの人に会場に足を運んでもらうためには質の高さが重要。互いが競いあい、技量を高めるためにもオーディションは必須。そして、東京の二期会は会員は3千人規模ですが、小規模な北海道二期会だと、きめ細かな指導を受けられる。そのため、高い水準の歌い手が多く育っていると思います。

わたしが2代目の理事長として重視したのは、北海道のオペラ文化の灯火を消さないためにも、とにかく活動を継続すること。オペラは制作費がかかるのですが、歌い手がときには裏方に回るなど、会員が全員で制作に取り組むことで経費を抑える工夫もしています。オペラが完成するのは、人々の協力があってこそだとしみじみ感じています。

そして来年、北海道二期会は設立60年。記念公演としてヨハン・シュトラウス2世の喜歌劇「こうもり」を来年11月に札幌市内で上演予定です。節目の年にふさわしい、華やかで楽しい作品で北海道のオペラシーンを盛り上げたい。ただ、課題もあります。北海道のオペラファンの高齢化が進む中、新たなファンを増やしていくことが重要です。そのために、小中学校でのワークショップを拡充するなど、アウトリーチに一層力を入れたい。

東京とはまた違う素晴らしい作品を北海道の歌い手で作ってきたことは私たちの誇り。そして北海道二期会の出身者が道内各地でオペラ公演を開催するなど、活動は着実に広がっています。オペラは素晴らしい総合芸術ですが、誰もが楽しめる魅力に満ちている。今後も100周年、そしてその先を見据え、公演を続けていきたいと思っています。

（聞き手・中村公美）